

大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型)推進報告

「特色ある優れた産学官連携活動の推進」

社会連携研究センター

特任教授 梅村時博

特任教授 松井 純

1. 事業の実施概要

地域産業の振興に実効性がある「三重地域活性化プロジェクト」を「地域振興プロデューサ」が企画し、関連する産学官関係者が協働で実施する「仕組み」の構築と地域への定着を進めた。さらに「三重地域活性化プロジェクト」の実施を通じた OJT 教育により次期「地域振興プロデューサ」の育成と、人材を通じた事業継承ができる人員体制を整えた。平成 22 年度から進めているプロジェクトを再編するとともに新たな「三重地域活性化プロジェクト」として計 9 プロジェクトを実施した。

2. 事業実施状況

(1) 学内における取組と成果

平成 22 年度では、前年度から継続しているプロジェクトを再編し、新たな「三重地域活性化プロジェクト」を立ち上げ、計 9 プロジェクトを実施し(表 1)、常時 9 テーマ程度が安定的に実施できる体制で本プログラムを推進している。これらのプロジェクトを効果的に推進するために、知的財産統括室の社会連携研究センターへの統合と「地域イノベーション学研究科」との連携強化を行い、「産学官連携の三重モデル」を実現する新体制(図 1)に改変した。

具体的には、本学運営費によって助教 1 名を新たに雇用することで、教授(3 名)-助教(3 名)-事務補佐員(3 名)が連携する基本体制を確立し、三重活性化プロジェクトを安定実施する体制を整備した。この体制整備によって、本事業終了後を継承する若手専任教員として 3 名を安定雇用するための学内基盤が確立できた。さらに、彼らを「地域振興プロ

デューサ候補者」として本事業を通じた OJT を行うことで、本学の産学官連携活動を担当する中核人材として本格的に教育を行うための足場固めができた。

表 1. 三重地域活性化プロジェクトの詳細

| 事業名 | 担当プロデューサ | プロデューサ候補者 | 地域イノベーション学研究科との連携 |
|-------------------------|--------------|------------|-------------------|
| (1) 鈴鹿カーボンバレー | 特任教授 梅村時博 | 助教 八神寿徳 | 教授 坂内正明 |
| (2) ものづくり企業新分野進出支援 | | | |
| (3) 新社会システム実証プロジェクト | | | |
| (4) 糖尿病に対するクリティカルパス推進 | | | |
| (5) ウェストメジャーリーグの他地域での実証 | 特任教授 松井 純 | 助教 加藤貴也 | |
| (6) 熊野古道リラクゼーションツアー開発 | 教授 西村訓弘 | 助教 狩野幹人 | |
| (7) 三重県南部地域柑橘類栽培による産業振興 | | | |
| (8) 柚子由来機能性化粧品開発推進 | | | |
| (9) 統合医療による地域活性化推進 | | | |

「地域イノベーション学研究科」との連携強化については、地域振興プロデューサが「地域イノベーション学研究科」の教員と連携することで同研究科における大学院生及び地域企業への「知的財産を活用した研究開発に関する実践的教育」を支援した。一方、「地域イノベーション学研究科」の教員は、地域活性化プロジェクトに参画することで、同研究科が保有する研究能力を活用した具体的な取組を、複数の三重地域活性化プロジェクトにおいて企画推進した。こうした取組の派生的効果として、三重大学および(株)三重 TLO が企画運営する Mip 特許塾では、

学内外の多くの参加者を得て知財活用の教育が実施でき、地域の中小企業への社会貢献が進んだ。また、「環境負荷低減を共通目標とした地域内連携を推進する事業」、「地産地消による地域イノベーションに貢献する事業」などの新たなプロジェクトの立ち上げを推進し、加えて、三重大学スマートキャンパス構想も進めた。

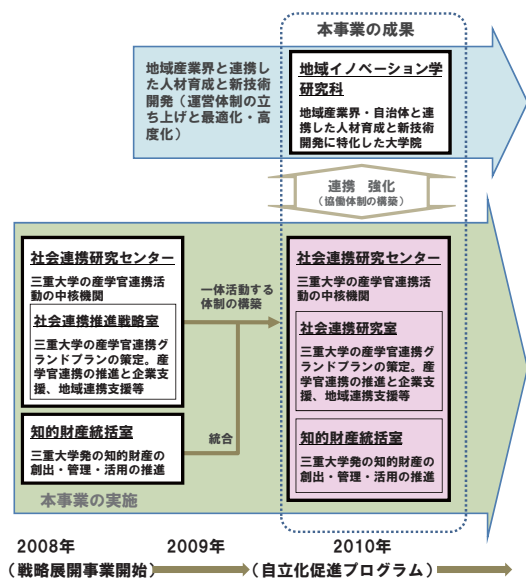


図1.産官学連携支援体制の整備

さらに、三重県と共に進める「みえメディカルバレープロジェクト」、「地域活性化を担うイノベーション若手研究者人材育成事業」、「欧州海外次世代自動車調査事業」などの他のプログラムとの連携、共同、支援を有機的に実施した。特に、地域活性化の具体的な活動として、ものづくり試作サポーター四日市、桑名ものづくり支援プロジェクト、鈴鹿市ものづくり支援事業（支援センター設立、助成事業開始）などへの活動支援、伊勢市産業支援センターでのベンチャー企業育成や、志摩市との連携による「伊勢志摩里海学舎」の創出、尾鷲市の進める「魚の町尾鷲」を支援して、養殖業者のための市役所および企業との連携構築を推進した。

(2) 学外に対する成果の発信

本事業の内容と成果を学外に広報するためにシンポジウム形式の公開セミナー（これらを総称して産学官連携セミナーと呼ぶ）を適宜開催した。このことにより、「プロジェクト参加者の目的と情報の共有化」、「プロデューサーおよびその候補者の育成」、「大学が持つ知財活用の啓蒙」を図り、個々のプロジェクトの成果が着実に地域活性化に結びつき、それぞれが連鎖しながら波及することを目指す。具体的には、アグリビジネス創出フェア、三重大学伊賀研究拠点セミナー、伊賀市および志摩市での文化フォーラム、伊賀市・中部経済産業局主催の知財セミナー、理科クラブによる実験授業開催、リーディング産業展みえ及びびみえ産学官研究交流フォーラム、医食同源フォーラムなど、様々な形態において研究や産学官連携活動の成果を報告している。また、学内の先端研究成果を広くPRするために、三重大学先端研究シンポジウムを東京にて開催した。

加えて、JST 新技術説明会を例年通り名古屋工業大学、岐阜大学と共に3大学で行い、本学から6つの研究シーズを紹介した。現在、2つのシーズについては企業との連携が進んでいる。さらにイノベーションジャパンでは、大学院医学系研究科と生物資源学研究科の2つのシーズに絞って展示公開した結果、300名以上の企業関係者のブースへの来訪を受け、サンプル提供や共同研究の企画推進など、企業との連携を継続している。

さらに、シーズ集やHPの更新を計画的に行い、大学から発刊する広報誌「三重大エックス」や産学官連携季刊誌「Y u i」での本事業の内容の紹介と成果報告を行った。

(3) 産学間連携経済効果と雇用創出効果の調査

地方大学が推進する産学官連携の取組の地域企業の発展と雇用にどのような効果があるか、今後どのようにすべきかについて、(株)百五銀行経済研究所並びに本学人文社会科学研究所の教授のアドバイスを受け、地方大学の産学官連携プロジェクトの経済効果と雇用創出の効果を調査・分析した。その結果、いくつかの特色と地域に根ざした成果が確認できた。

たとえば、三重地区に設立されたベンチャー企業「うれし野ラボ」が柚を軸として地域の産業活性化（柚栽培→柚の搾汁→派生する新食品創出→堆肥活用→漁業への活用など）、地域の複数企業への連鎖、さらには工場設立、製品化による具体的な雇用創出という理想的なサイクルが始動している。こうした効果的なサイクルは、三重大学が進める産学官プロジェクトの効果が徐々に地域に浸透し始めたことを確認できた。

さらに「メディカルバレープロジェクト」との連携により、地域企業との連携による「ラムナノハイジャン」、「熊野古道クリーム」、「GABA 醤油」など、いくつかの新商品の実用化、企業間連携の加速が進み、地域経済に良い影響をもたらしていることを確認できた。これらの雇用創出効果として約10名弱を実現でき、今後も継続的に推進できる見込みである。

また、沖縄県における産学官連携プロジェクトの進め方、その追記への波及効果、雇用促進への効果などについて調査した。

海外における地域産業の連鎖的拡大の取組について、ニュージーランドのリンカーン大学、オークランド大学などを訪問して現地調査を行った。リンカーン大学では、生ゴミ処理（官）→有機農業（学）→野菜の栽培と商品化（産：農家）という地域のクローズサイクルが有効に廻る産学官連携活動の具体的事例があり、今後の活動の指針となった。さらに、日本企業とオークランド大学との国際連携の実現可能性にも発展させることができた。

自動車関連の産学官連携状況調査に関連して、スエーデン、ドイツ、アメリカおよび中国の大学を訪問し、様々な国の産学官連携の特徴を調査した。特に、中国では官である国の指導が重要なポイントであることが改めて明確になった。また、それぞれの国において、国の政治経済の特色、さらには歴史の変遷などを色濃く反映した産学官連携が進められていることが分かった。

本調査で得られた成果は、三重地域圏に留まらず同様の産業情勢にある国内の他の地方圏にも適用できると考えられ、地方からのイノベーションによる取組として、23年4月に設立する「三重大学地域戦略センター」に発展的に引き継ぐ。

3. 活動実績

| | |
|-----|---|
| 4月 | 知的財産統括室に専任助教としてプロデューサ候補者1名を雇用 「伊勢志摩里海学舎」事業の計画立案とJST申請 ウェストメジャーリーグ利用調査 尾鷲・熊野市との連携による熊野古道リラックス調査 三重樹脂との風車ブレード開発共同研究推進 |
| 5月 | A.Weil氏を招聘し、統合医療、医食同源に関する交流 地域イノベーション学会設立準備 工学部学生の伊勢地区企業見学会 柚プロジェクト意見交換会 |
| 6月 | 鈴鹿市との友好協力協定締結（研究会の立ち上げ）、四日市市総合計画支援 グルメディカルツアー開催、科学・技術フェスタ in 京都出展 東芝産業機器製造(株)との共同研究推進 メディカルバレープロジェクト研究会 |
| 7月 | 東海3大学新技術説明会（JST）、国際バイオエキスポ2010への出展 ニュージーランド産学連携調査・若手研究者交流 三重大・百五銀行技術相談キャラバン計画企画検討会 北海道海洋深層水利用調査 柚プロジェクト：柚アイスクリーム企画検討 |
| 8月 | 新社会実証システムとしてスマートキャンパス構想の準備 津市一三重大学連携・企業成長支援室設立、「津地域魅力発見ツアー」開催 フジトランスコーポレーション、尾鷲物産企業間連携検討 知財ポートフォリオモデル構築 |
| 9月 | 健康増進プログラム研究会 イノベーションジャパン、バイオジャパン、フードテックへの出展 新社会システム研究会 三重メディカル研究会 |
| 10月 | 心と体の健康ツーリズム・フォーラム 三重物産展開催（ドイツ） ドイツシャルジャ大学との連携協定 中国東北地方への訪問（瀋陽薬科大学、中国医科大学との連携構築） |
| 11月 | みえ産学官研究交流フォーラム、志摩市文化フォーラムの開催 リーディング産業展みえ、アグリビジネス創出フェアへの出展 ニュージーランド産学官連携調査、Mip 特許塾開催（全8回） 第3回東海ニューテクノフォーラム（JST）出展 「実用技術開発事業」提案のための海藻養殖調査（韓国） |
| 12月 | 三重大学先端研究シンポジウム開催 次世代自動車産学官連携の実態調査（欧州） 第3回名古屋大学 医学・バイオ系知財フェア出展 伊勢市との共同研究契約準備、将来の観光のあり方 |
| 1月 | 伊勢市との友好協力協定の締結 四日市市石油コンビナートの工場見学会（三重県、四日市市協賛） 次世代自動車産学官連携の実態調査（中国、北米） 次世代自動車コーディネータ連絡会 |
| 2月 | JST 意見交換会 伊勢志摩里海学舎事業の構想検討 三重大学先端シンポジウム大阪開催準備 三重大医学部産学官交流会 韓国における産学官連携の可能性「ひじき」の育成調査 |
| 3月 | FC-EXPO への出展、尾鷲市市役所・企業との連携による養殖業支援 三重大学シンクタンク「三重大学地域戦略センター」設立準備 自立化促進プログラムの平成22年度活動まとめ スマートキャンパス構想に関する中部経産局との懇談意見交換 |